

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム やすらぎホーム金光
日付	平成19年3月30日 特定非営利活動法人
<b>評価機関</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員経験5年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「利用者に対する尊厳の尊重」「ゆったりとした生活リズム」「やすらぎのある環境」「地域の人々との交流」「自立できる支援」がこのグループホームの目指している目標であり、職員はこれらの内容を理解し、実現に対して気持ちを共有している。</p> <p>社長は、各ユニットに理念とは別に月を追って、「誠実な笑顔」「優しいトーンの声かけ」「辛抱強くやさしい眼差し、観察力を持つ」という言葉を送っている。「なかなかクリア出来ません」と管理者は言う。この言葉は理念を実現していく為に、社長が職員に話した心掛の言葉、はなむけの気持ちであろう。一つひとつの言葉を噛み砕いて、皆で考えていくと、きっとサービスの向上に結びついて行くであろう。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者の居室には、それぞれの若い頃、元気な頃の思い出の写真や絵を掲げ、心の落ち着くような負に気を作っている。又家族の写真が貼ってあり、息子さんや孫たちの笑顔が毎日の元気を与えてくれるだろう。その人を表す家具や洋服があり、その人柄を表現して、個性豊かな居室作りがしてある。</p> <p>1階のリビングルームから外に広いウッドデッキがあり、そこから庭に出られる。庭には広場と植え込みゾーンがあり、家庭菜園もある。この外の空間は、2つのユニットの利用者にとって、お互いの交流の場であり、家族との懇談の場になり、地域の人々との新しい発見を生む環境にもなり得る。楽しい一時を何回も積み重ねる場にしていくと欲しい。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

<b>講評</b>
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>利用者の方々は、話題豊富であり、話し好きの人が多く、自分の人生や仕事の誇りもあるし、自分自身への思いもしっかりとしていて、話しのきっかけを向ける色々な経験や体験を話してくれたり、親から受けた気持ちや利用者同士の労りも話してくれる。「国鉄マンで活躍した人」「タンカーで航海して港々での楽しさ、機械いじりの得意な人」「メリヤス編織人で工場で活躍していた人」「農業をして米や野菜の耕作をしていた人」「校長まで昇りつめた教育者」等の男性利用者の経験も豊富だし、それぞれの人柄も千差万別であるが、仲良く暮らして、お互いを尊敬している。「主人の仕事を手伝って、相棒を支えてきた婦人」「小さい頃、母から教わった言葉を大切に今も生きている女性」「職員を頼りきっている女性」「人形を大切に、自分の分身と考えている女性」元気な頃、旅行した思い出を大切にしている人、そしてホームに来て、仲良くなった利用者同士などこのホームで多種多彩の人生が繰り広げられている。</p> <p>その人のこれまでの人生が分かれば、気持ちに合わせた見守りや声かけが出来る。管理者も職員も、人生の先輩として、その人らしさを尊重している。敬愛の気持ちは、職員の言葉遣いに表れて、利用者の心に伝わる。「今は、このホームに入れて、皆良い人ばかりで、本当に有難いと思っています」と言う利用者の言葉に対し、「私達も感謝されていると嬉しくなる。反対に私達の方が教えられています」と職員は言う。</p> <p>「駄目よ!」「一寸待ってね」という言葉をなくそうと職員はいつも申し合わせている。利用者の希望や訴えを大切に、出来るだけ早く対応するように掛けている。バタバタせず、ゆったりと利用者へ接し、部屋に閉じこもったり、一人きりにならないよう、リビングルームでお喋りしようと声かけをしている。利用者の皆さんの色々な話しをまとめると、きっと素晴らしい私達の人生史が出来そうである。</p> <p>特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした</p> <p>地域との交流のきっかけを作る運営推進会議では、ホームを理解してもらいたいという事と、ホームに協力して欲しいという両面で地域密着型の関係を作り上げていってもらいたい。利用者の家族からも「このホームに来て良かったことが多い」という事も言ってくれている。どんどん意見交換を根気よくしてもらいたい。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>ケアマネジメントの要となる介護計画と介護・生活記録については、試行錯誤しながら改良を重ね、重複記載をなくす工夫が出来、このホームなりにより良い方向を見出すようとしている努力の跡が伺える。先ずプラン作成上必要ある利用者の生活歴や人生歴等できるだけ詳しく書くようにしようとしている。過去や日々の利用者の行動や言葉から充実した情報を作り上げていくことも大切だと思う。</p> <p>介護記録や生活記録は一週間分の表にまとめて書けるように工夫している。一目でその人の様子が分かりやすい。日常の記録とその人の行動や年間を通した諸行事の写真や記録を特記したメリハリのある利用者のこのホームでの生活史が書き出せるような記録にして、利用者にとって貴重な思い出と話しのできるきっかけにしたい。</p> <p>利用者や家族のための記録を書くことによって、一人ひとりの利用者に応じたケアのコミュニケーションのきっかけ作りが出来、ケアサービスの質の向上に繋がっていくと考える。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か</p> <p>訪問調査前アンケートの回答及び自己評価の記入を見て驚いた。要改善項目をいっぱい挙げている。これは日常の業務分析がしっかり出来ており、あらゆる分野を自分自身で厳しく、謙虚な姿勢で見ている姿勢を感じた。そして改善していきたいと思う熱心さも伝わる。要改善の項目を日常業務に転換して、どこを改善したら良いのか具体的及び客観的に一つひとつ具現化出来るよう着実に改善等を見出して欲しい。そしてトップから職員までその方向性を一本化することにより、より良いホームに生まれ変われそうだと思う。</p> <p>家族や地域との連携をどのようにしていったら良いのかも運営推進会議を1回1回根気よく積み重ねながら、サービスの向上に繋げていってもらいたい。</p>		